

インタラクティブ空間演習 オリエンテーション

女子美術大学大学院美術研究科博士前期課程デザイン専攻メディア研究領域

1. 「意義ある余暇」としての大学院

- a). school の語源 “skhole” (スコレー、ギリシャ語) = 「意義ある余暇」
- b). 「閑暇とはたんに暇な時間ではない、また、仕事の疲れを癒す休息でもない。
閑暇は、人間が学問や芸術に専念し、幸福を実現するための、自由で満ち足りた時間である」
(加藤守通「第2講 哲学と教育」、『教育思想史』今井康雄(編)東京：有斐閣アルマ、2009年、46頁。)
- c). 大学院でこそ学べることを学んでほしい。修了後の環境では(生活上・實際上)学びにくいことがある。

2. 担当講師紹介

takuyo.ishii@gmail.com

- d). 石井 拓洋 (ISHII, Takuyo), Ph.D.
- e). 研究領域
 - 音楽文化学研究 (とくに、20世紀アメリカの音楽と文化)
 - 作曲家アーロン・コープランド研究 (Aaron Copland, 1900 - 1990)
 - 芸術理論全般 (音楽に限らない多様な芸術ジャンルの実践経験をふまえて)
- f). 論文
 - 「アーロン・コープランド：『アメリカらしさ』の革新性と映画音楽への展開」(東京芸大博士論文, 2016), 他

3. 〈研究的視点〉理解を深め、〈研究作法〉を体得する授業

- g). 特に〈研究的視点〉の理解を深めることに力点をおく。
- h). 人文社会科学の研究での主要な論点を知る (西欧近代主義、知の権力、周縁、言語に対する新しい認識、など)。
- i). 〈実体論〉から〈関係論〉への思想潮流の理解 (肯定的であっても、批判的であっても、無視できない先行研究例)。
- j). 〈関係論〉を導いた淵源としての、20世紀における「言語に対する新しい認識」〈言語論的展開〉(linguistic turn)。
- k). 〈他者〉を知る。「理解不能な事柄」にこそ自らの視点の欠落がある。〈他者性〉を受容するための資料精読のすすめ。

4. 具体的な授業説明

- l). 講義資料 Web ページ <http://www.iitak.com/m2019/>

5. 来週の連絡

- m). 来週 4/24 に、全員、大学院入試で提出した「研究計画書」を印刷して持参して下さい (自分の分と石井分の2部)。
- n). 「研究計画書」に基づいて 各自の研究紹介をして下さい (紹介+質問などをふくめて一人約10分程度)。